

編集ノート

文学作品あるいはその作家を研究する際、資料の信憑性が問題となる。作品の場合は版本というかたちで表われる。版本間で異同が見られることが少なくない。その異同にも、作者の意識の変化で自らが手を入れた場合と、出版者が改変した場合とがあり、その二者は当然区別しなければならない。作者自身の手になるものならば、それはそれで別の問題にすることができる。しかし、出版者が校訂という名で作業を行ない、しかも具体的な註記をほどこさない時、やっかいな事になってしまう。どこまでが原文のままで、どこに校訂者の筆がはいっているのか見分けがつかないからだ。枯れたススキをつかまえて、これが幽霊だ、ということになりかねないのを恐れる。

本誌発行の目的にはふたつある。その1、清末小説およびこれに関することを研究する私たちのために、文章を発表する誌面を作ること。その2は、基礎的な資料の整理である。基礎的資料の整理には、上述版本についての整理が含まれる。そのほか、著

作目録、内外の研究文献目録、ある場合には作家の年譜も必要だ。第1号は劉鉄雲に関しての資料を特集したが、最初の計画では重要と考えられる評論（中国語）を10数篇再録する予定であった。しかし頁数の都合で付録として2篇を収録するにとどめるほかなかった。次号以下、曾孟樸、李伯元、吳趸人の資料を予定している。この顔ぶれを見ただけで、また例の4人か、魯迅・阿英の枠を一步も出していないではないか、という批判の声が聞こえる。そうだ、私たちも、一刻も早く批判する側にまわりたい。

論稿については、各自が現在行なっている清末小説に関するものを単に集めるという体裁に、今のところならざるを得ない。

私たちの学力と金力には限りがあるため、年1回10月発行の予定で、4号までは発刊するつもりだ。それからのことは、またその時考える。

本年3月10日、竹内好氏葬儀において増田渉先生が急逝された。本誌創刊を準備中の昨年夏、原稿依頼に泉北のお宅をうかがったことがある。その時の、「君たちを応援する意味で、書くよ」という先生の言葉が忘れられない。（たるもと）

清末小説研究 第1号

発行日 ■ 1977年10月1日

実費 ■ 980円（送料200円）

編集兼
発行人 ■ 樽本照雄

印刷所 ■ 真美印刷株式会社

発行所 ■ 清末小説研究会

〒631奈良市右京2丁目
平城第2団地19-208

樽本照雄方

振替 大阪40475

中国文芸研究会編集

野草 第20号

1977年8月

中国文芸研究会
大阪経済大学内 振替 大阪38746
〒533 大阪市東淀川区大隅通2

葉紹鈞の童話集『稻草人』……………牧戸和宏
『孔乙己』論……………谷行博
「国防文学論戦」の一側面……………号削俊洋
香港の思い出——人……………相浦 呆
「摩羅詩力説」材源考ノート(10)……北岡正子
郁達夫の旧詩について(下)……………加藤 誠
復刊された『人民文学』……………牧戸和宏
幻の雑誌『新小説』……………樽本照雄
吳趸人著作目録(初稿)……………中島利郎
周作人作品年譜(初稿)上……………福田俊昭

定価 1200円
送料 200円

《野草》

バックナンバー

創刊号 魯迅特集 在庫なし
第2号 清末小説特集 在庫なし
第3号 現代中国文学 350円
第4号 中国の古典文学と現代 350円
第5号 魯迅特集(その2) 350円
第6号 五四時代の文学 350円
第7号 中国文学と日本の教育 350円
第8号 三〇年代文学 400円
第9号 魯迅特集(その3) 400円
第10号 解放区の文芸 400円
第11号 日本の現代文学と中国 400円
第12号 作家論 400円
第13号 魯迅特集(その4) 400円
第14号 三〇年代文学(その2) 800円
第15号 仙台における魯迅の記録 800円
第17号 日中文学交流の一断面 800円
第18号 近現代中国文学 1200円
第19号 魯迅特集(その5) 1200円

合訂本 (創刊号～7号) 一部 4,000円

〒461 名古屋市東区車道町5-4

采華書林

Tel. (052) 936-4589 振替名古屋4185